

訪問動物看護ガイドンス

【1】基本理念

【1】-①目的

「訪問動物看護ガイドンス」（以下、「本ガイドンス」）の目的は、「愛玩動物看護師法」の施行により、愛玩動物看護師の業務内容が拡大し、訪問先での動物看護のニーズが高まる中、安全かつ質の高い動物看護サービスを効果的に提供するための指針を示すことにあります。

本ガイドンスでは、訪問時における愛玩動物看護師の業務の基本的な考え方とその方法を模範提示し、動物の健康と福祉および適正な飼養管理が継続されることを最優先に考えた動物看護の提供を推進します。また、飼い主のプライバシーを尊重しつつ、愛玩動物看護師の守秘義務や自身の安全確保についても配慮することを掲げています。

このガイドンスは、愛玩動物看護師が法的枠組みに基づき、安全で信頼性のある訪問動物看護を提供するための基盤となるものです。

【1】-②理念

本ガイドンスは、訪問動物看護において「愛玩動物看護師法」を正しく理解し、法的に認められた業務内容を遵守することで、動物および飼い主に不利益が生じないことを理念としています。

愛玩動物看護師は、獣医師の指示を遵守し、自己判断による獣医療行為を行ってはならない。飼い主からの依頼があった場合でも、法令に基づいた安全で適切な訪問動物看護を提供することを目指します。

【1】-③倫理綱領

本ガイドンスは、一般社団法人 日本動物看護職協会が公表した「愛玩動物看護者の倫理綱領」（2020年）に基づき、訪問動物看護に従事する愛玩動物看護師の行動指針を示すものです。

愛玩動物看護師がこの倫理綱領を遵守することにより、動物看護の専門職としての責任と倫理を深く自覚し、日々の業務を振り返るための基盤とします。また、社会に対して愛玩動物看護師の責任範囲を明確に示し、訪問動物看護における信頼性と専門性の向上を目指します。

【2】プライバシー保護の重要性

愛玩動物看護師は、業務を通じて知り得た飼い主および動物に関する情報を適切に取り扱い、外部に漏らさない責任と義務があります。

これらの情報を他者と共有する際には、情報共有の目的(獣医療への情報提供、動物ケア会議など)を明確にし、飼い主に説明した上で、文書にて同意を得る必要があります。

【2】-①自己の情報提示に関する注意点

自身の住所、連絡先、家族構成などを提示することは、プライバシーの侵害やトラブルの原因を生む可能性があります。不必要に個人情報を共有することで、悪用される危険性や訪問先でのトラブルを招くことがあります。

仕事上のやりとりに限定し、十分に配慮しましょう。

【2】-②プライバシー保護の具体的な対応策

飼い主や家族のプライバシーを守ることは、訪問動物看護の信頼を築く上で欠かせない重要な要素です。愛玩動物看護師法の定めにもある通り、業務上知り得た情報は、外部に漏らさないよう対応策を講じ適切に管理しましょう。

【2】-③個人情報と訪問先情報の管理

・個人情報の取り扱い

個人情報(氏名・住所・家族構成等)や訪問先に関する情報は、業務上必要な場合を除いて使用しないよう徹底します。特に、訪問中に見聞きしたプライベートな情報(郵便物や写真など)も含めて、第三者に漏らさないようにしましょう。

・カルテやデータの管理

カルテや診療記録は慎重に扱い、持ち運びの際は盗難や紛失を防ぐための対策を講じます。電子データはパスワードや暗号化で保護することが推奨されます。

例:「タブレット端末にカルテを保存する際は、紛失しても不正アクセスされないよう、二重認証を設定しましょう。」

「カルテなど、個人情報が入っている端末は常に手元で管理し、不用意にその場を離れないようにしましょう。」

・プライバシーポリシー

訪問時に得られる情報は、動物看護や治療目的以外で使用しないことを明言します。

【2】-④SNS投稿と情報発信の注意

・飼い主の許可なしに、動物の写真や情報を公開しないようにしましょう。

動物の写真や情報は、飼い主にとって大切なプライバシーの一部です。

2025年6月29日制定

訪問動物看護で得た情報を第三者に共有したり、SNS や公開メディアに掲載する際には、必ず事前に飼い主の明確な許可を得ることが必要です。許可が得られない場合は、たとえ善意や教育目的であっても公開は控えるべきです。

- ・訪問先の日時や場所が特定されるような情報は、SNS 等で公開しないようにしましょう。

SNS やインターネットでの発信では、訪問日時や場所が特定されないよう配慮し、背景に写る私物や住所、及び動物の名前や家族写真などにも注意しましょう。

具体例:

「訪問先で撮影した写真を SNS に投稿する際、飼い主から許可を得るとともに、プライバシーを侵害する可能性のある要素が含まれていないか念入りに確認します。」

- ・リアルタイム情報の発信を避ける

訪問中に SNS でリアルタイムの状況を発信することは、プライバシーや安全上のリスクを高める可能性があります。

具体例:

「今から〇〇ちゃん(動物の名前)宅に訪問します。」といったリアルタイムの投稿を避け、家主が不在であることをむやみに投稿しないよう心掛けましょう。

【3】緊急時の対応

【3】-① 動物の緊急時対応

緊急事態を想定した事前準備を行い、迅速かつ冷静に対応できるよう備えておくことが重要です。

応急処置に必要な道具は常に携帯し、使用方法を習熟しておきましょう。

また、動物種や症状に応じた応急処置の基本を理解し、適切な対応ができるよう、知識を常にアップデートしておくことが求められます。

【3】-② 獣医師との連携

緊急時には、かかりつけの獣医師と迅速に連絡を取ることが必要です。以下のような準備を整えておきましょう。

- ・緊急時に備えて、獣医師や動物病院の緊急連絡先を含む連絡先リストを準備しておきます。
- ・動物の既往歴や現在の治療内容を共有できるよう、記録を整備しておきます。
- ・訪問前には、緊急時の対応に関する獣医師の指示を確認しておきましょう。

【3】-③ 愛玩動物看護師法に基づく心肺蘇生措置

愛玩動物看護師法では、救急救命業務の一環として、獣医師があらかじめ定めた手順書に基づいて心肺蘇生措置を行う場合には、個別具体的な指示を必要としないことが定められています。

したがって、あらかじめ提供された手順書の内容を理解し、必要時には手順に従って緊急処置を実施してください。手順書は定期的に確認し、内容が更新された場合には、新しい情報を必ず反映するようにしましょう。

【3】-④ 緊急時マニュアルの共有と活用

獣医師や動物病院、動物看護チームと連携し、緊急時対応マニュアルを作成・共有することが推奨されます。

マニュアルには以下のような項目を含めると良いでしょう。

- ・緊急事態の識別方法(例:呼吸困難、出血、痙攣など)
- ・状況に応じた応急処置の手順
- ・獣医師へ報告すべき症状や状況の基準

マニュアルは定期的に見直し、最新の情報を反映させることで、緊急時にも落ち着いた対応が可能になります。

【3】-⑤ 定期的な訓練とシミュレーション

緊急事態に備えて、定期的に訓練やシミュレーションを実施しましょう。

実際の状況を想定した模擬訓練(ロールプレイ)や、知識を最新に保つ(アップデート)ことにより、現場での対応力を高めることができます。

【4】自身の安全確保

訪問動物看護を行う際には、動物のケアだけでなく、自身の安全確保や訪問先の環境に対する配慮も重要です。安全な環境を整えることで、適切な動物看護を提供できるだけでなく、訪問先のご家族にも安心を届けることができます。以下のポイントを意識して、安全な訪問動物看護を実践しましょう。

【4】-① ハラスメント対策

訪問先では、さまざまな方と接するため、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメント、カスタマーハラスメントなどのハラスメントに遭遇する可能性があります。以下のようないくつかの対策を心がけましょう。

・事前に対応策を学ぶ

ハラスメントのリスクを理解し、適切な対応方法を事前に学習しておくことが重要です。

・毅然とした態度で対応する

不適切な発言や行動には、毅然とした態度で対処し、冷静かつ明確に拒否の意思を伝えましょう。

・支援を求める体制を整える

問題が発生した際には、職場の上司や関係機関に速やかに報告し、必要な支援を受けられる体制を整えておきましょう。

【4】-② 暴力への対応

訪問先の状況や環境によっては、思いがけないトラブルが発生する可能性があります。

暴力的な状況を避けるために、以下の対策を事前に準備しておきましょう。

2025年6月29日制定

- ・リスクを事前に把握する

訪問前に相手の情報を確認し、過去にトラブルがあったケースなどを把握しておきます。

- ・身の安全を最優先する

危険を感じた場合には、すぐにその場を離れ、必要に応じて警察や関係者に連絡しましょう。

- ・単独訪問を避ける

必要に応じて同僚や関係者と同行することで、安全性を高めることができます。

【4】-③ 迷惑行為・カスタマーハラスメントへの対応

訪問動物看護の現場では、業務に支障をきたすような「迷惑行為」や、理不尽な言動・要求を繰り返す「カスタマーハラスメント」に直面することがあります。

専門職としての尊厳を守りながら、適切に対処することが、安全で安定した動物看護提供につながります。

- ・落ち着いた態度を保ち、感情的に反応しない

相手の言動に巻き込まれず、冷静さを保ちましょう。相手のペースに飲み込まれないことが大切です。

- ・訪問後は、必ず記録を残しましょう。

日時、内容、相手の発言、自分の対応、感情などを客観的に記録しておくことで、必要なときに証拠となります。

- ・一人で抱えず、組織内や関係者に相談しましょう

上司・同僚・連携先の獣医師などと連携し、訪問体制や対応方針の見直しを行いましょう。

- ・訪問の継続が難しい場合の対応

継続が困難と判断した場合、契約内容の見直しや訪問終了の手続きを、正式な手順に沿って行います。

【4】-④ セキュリティへの配慮

訪問時の環境にも十分な注意を払い、予期せぬトラブルを防ぎましょう。

- ・建物のセキュリティ状況を確認する

訪問先の施設や建物のセキュリティシステムを事前に確認し、安全な訪問環境であるかどうかを把握しておきます。

- ・オートロック解除時の注意

マンションやセキュリティが厳重な施設では、オートロックを解除する際は、第三者が背後から侵入しないよう十分に注意を払いましょう。

▷ 周囲の状況を確認し、知らない人が近づいた場合は、再度ロックをかけるなどの対応をとりましょう。

▷ 相手先の指示に従い、必要に応じて、警備員や管理人へ報告しましょう。

- ・夜間や人気の少ない場所での訪問時の対策

明るい時間帯への訪問時間の調整を検討し、緊急時に備えて連絡手段を確保しておきます。また、必要に応じて家族や職場に訪問予定時間を事前に伝えておきましょう。

【4】-⑤ 自身と相手先の安全を守るための心構え

訪問動物看護は、相手先の自宅や施設を訪問するため、自身の安全だけでなく、相手の安全にも配慮することが求められます。

- ・自分自身の安全確保はもちろんのこと、訪問時には相手に不安を与えないように配慮しましょう。
- ・施設内での行動には注意を払い、相手のプライバシーに不用意に踏み込まないように心がけましょう。
- ・万が一に備え、職場や関係者と定期的に情報を共有し、適切な対応ができるよう準備しておきましょう。

【4】-⑥ 災害・感染症・大規模事故等における安全確保(BCP 対応)

訪問動物看護時に、危機的状況が発生する可能性をあらかじめ予測した上で、リスク対策を講じておく必要があります。事前に事業継続計画(BCP)を策定しておくことが重要です。BCPとは、災害時に訪問動物看護活動を継続するための計画をいい、策定したままにせず、実施や訓練をおこない、評価し、再度計画をし直すことが重要です。

対応は以下の3段階で整理しましょう

1.事前対策

災害対策マニュアルを整備し、自身・飼い主・動物の安全確保の方法や連絡ルートなどを明記した上で、関係者と共有します。

2.災害発生時

まずは自身の安全を確保し、その後、飼い主と動物の安否確認や避難支援を行います。電話・メール・訪問などを使い、状況を迅速に把握しましょう。

3.災害後の対応

避難支援に加え、傷病動物への応急処置、動物病院への搬送支援、衛生管理などを行い、早期の復旧・再開を支援します。

- ・感染症の拡大時は、動物および周囲の衛生状態に配慮し、感染予防対策を徹底しましょう。
- ・地域の動物病院・獣医師・自治体・防災組織・動物福祉団体等と連携し、飼い主が適正飼養を継続できるよう協力体制を築くことも重要です。

【5】訪問動物看護において、愛玩動物看護師が行う処置

愛玩動物看護師法に基づき、獣医師の包括的指示書のもとで愛玩動物看護師が実施できる処置を以下に示します。

【5】-①獣医師の指示のもと可能な処置

- ・採血
- ・皮下点滴

2025年6月29日制定

- ・投薬(内服薬および外用薬の投与)
- ・点眼・点耳
- ・傷の処置(ガーゼ交換、創傷の洗浄・消毒)
- ・カテーテル採尿
- ・バンテージ交換(包帯法)

【5】-②獣医師の指示を必要としない処置

- ・バイタルの確認(体温・心拍・呼吸数・血圧の測定)
- ・食事・水分補助(給餌・給水)
- ・排泄補助(オムツ交換、排泄介助)
- ・被毛・皮膚のケア(ブラッシング、保湿ケア)
- ・清拭・部分洗浄(汚れた部位の清拭)
- ・爪切り・足裏の毛刈り
- ・心肺蘇生(指示書がある場合のみ)

【5】-③訪問時の注意点

- ・獣医師との連携を密にし、訪問前後の報告を徹底しましょう。
- ・動物の状態が急変した場合は速やかに獣医師へ連絡し、適切な指示を仰ぎましょう。
- ・飼い主にも処置の範囲を理解してもらい、必要に応じて獣医師の診察を促しましょう。

【6】記録と報告の重要性

訪問動物看護の現場では、限られた時間の中で多くの判断を求められます。その中で、ケアの正確な記録と適切な報告は極めて重要です。これらは、継続的かつ質の高いケアの提供を支える基盤であり、限られた訪問時間内における動物の状態把握および適切な処置の実施に不可欠です。

記録は、単なる事実の記載にとどまらず、専門職としてのケアの評価・質の向上・新たなケア開発の資料としても活用されます。蓄積された情報は、症例検討や実践知の共有を通じて、訪問動物看護全体の発展にも寄与します。さらに、法的観点からも記録の意義は大きく、万が一、獣医療訴訟等の事案が発生した場合には、記録は診療録(カルテ)と同様に重要な証拠資料として扱われる可能性があります。

したがって、訪問動物看護に従事する者は、客観的かつ詳細な記録の作成を徹底し、適時適切な情報共有を行うことが求められます。実践においては、「あとで書けばいい」ではなく、「今、正確に残す」意識を常に持ち続けることが求められます。

以上のことから、記録および報告は、実践の安全性と専門性を支える中核的な業務であり、常に高い意識をもつて取り組みましょう。

【6】-①ケアや処置内容の記録

訪問で行ったケアや処置内容は、正確かつ簡潔に記録し、必要に応じて関係者が参照できるよう適切に保管することが大切です。

【6】-②客観的な情報の記録

- ・記録には「いつ・どこで・誰が・何を・どのように実施したか」を明確に記載します。
- ・主観的な判断ではなく、観察した事実を基に記録します。

例:「左前肢に1cm程度の傷あり。軽度の発赤あり。消毒処置を実施。」

【6】-③記録の法的側面

- ・訪問動物看護における記録は、万が一のトラブル時に法的保護の役割を果たします。
- ・適切な保管期間(獣医師法第21条2項、獣医師法施行規則第11条の2参照)を定め、管理を徹底しましょう。

【6】-④報告の実施

訪問動物看護では、獣医師や飼い主に対する適切な報告が求められます。報告を確実に行うことで、関係者全員が動物の健康状態を正しく把握し、必要な対応を講じることができます。

【6】-⑤飼い主への報告

- ・訪問時のケア内容や処置、動物の健康状態について、わかりやすく伝えましょう。
- 例:「今日は各関節の動きを確認しましたが、股関節の可動域が気になります。かかりつけ獣医師に確認してもらい、必要な検査を受けた方が良いと思います。その後に適切な運動を一緒に行いましょう」

【6】-⑥獣医師への報告(外部の獣医師から訪問動物看護を依頼された場合)

- ・訪問動物看護後、必要に応じて詳細な報告書を作成し、獣医師へ提出しましょう。
 - ・記録は獣医師の診断や治療計画に影響を与えるため、簡潔かつ正確にまとめましょう。
- 例:「1月25日 10:00 訪問 左後肢の筋緊張が増加。ストレッチ実施後、若干の緩和を確認。次回の訪問時にも継続予定。」

【6】-⑦記録方法と管理の徹底

訪問動物看護では、適切な記録を残すことが特に重要です。訪問ごとに状況が変化するため、他の愛玩動物看護師や獣医師と情報共有しやすい形で記録を作成する必要があります。

【6】-⑧分かりやすいフォーマットを使用する

- ・記録が分かりにくく、他の愛玩動物看護師や獣医師が正しく情報を把握できないため、シンプルで見やすいフォーマットを活用しましょう。

例:「日付 / 訪問時間 / 動物の状態 / 実施したケア / 獣医師への連絡の有無 / 備考」

2025年6月29日制定

【6】-⑨訪問動物看護ならではの記録の重要性

訪問動物看護では、訪問ごとの記録を詳細に残し、次の訪問や継続ケアに活かせる形にすることが不可欠です。

【6】-⑩電子データ化の活用

- ・必要に応じてデジタルツールを活用し、記録の管理を効率化しましょう。
- ・クラウド型記録管理を利用することで、遠隔での情報確認や複数名でのリアルタイム共有が可能となります。

【6】-⑪記録と報告を徹底することで得られるメリット

- ・継続的なケアの質が向上する

記録を活用することで、前回の訪問時との比較が容易になり、動物の状態変化を的確に把握しやすくなります。

- ・トラブル防止につながる

記録を残すことで、万が一トラブルが発生した際に、客観的な証拠として活用できます。

例:「実施すべき処置をしていないと飼い主から苦情があつたが、記録により処置を実施した事実が確認できた。」

- ・獣医師との連携がスムーズになる

適切な報告を行うことで、獣医師がより正確な診断や治療方針を決定しやすくなります。

附則:この「訪問動物看護ガイドライン」は1年に一度見直すものとする。